兵庫県立加古川医療センター

県かこ 地域医療連携ニュース vol.67

2016年5月号
発　行／
兵庫県立加古川医療センター
〒675-8555
加古川市神野町神野203番地
TEL:079-497-7000（代表）
TEL:079-497-7011（地域医療連携部直通）
FAX:079-438-3756（地域医療連携部直通）
http://www.kenkako.jp/

もくじ

● リウマチ膠原病センターのご紹介・・・・・・・・ ①
● 診療科紹介　整形外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ②
● 診療科紹介　放射線科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ③
● 2016年度患者教室のご案内・・・・・・・・・・・・・・ ④

リウマチ膠原病センターのご紹介

兵庫県立加古川医療センター副院長兼
リウマチ膠原病センター長
田　中　泰　史

４月１日からリウマチ膠原病センターを開設しました。

当リウマチ膠原病センターは、国立加古川病院のリウマチ科の流れを汲むもので、2000年12月に国立加古川病院が（財）甲南病院へ移譲されたことに伴い、甲南加古川病院リウマチ膠原病センターとしてさらに発展してきました。同センターでは、内科的・整形外科的治療はいうに及ばず、血液浄化センターでの血漿交換療法や白血球除去療法なども含めて、加古川地区はもとより兵庫県下全域から数多くのリウマチ性疾患の通院・入院患者さんを受け入れ、リウマチ性疾患の中核施設としての役割を担ってきました。

このたび、このリウマチ膠原病センターの診療機能が兵庫県立加古川医療センターに移行され、４月１日よりリウマチ内科医４名、整形外科医２名の体制で診療をはじめています。

さらに12月には新しくＭＲＩ棟（仮称）が完成するのに伴い、その場所での血液透析の開始、また診察室の拡充など、診療がより一層充実する予定です。

前身の甲南加古川病院リウマチ膠原病センターでは、平成27年12月の受診患者さんの居住圏は、病院の５㎞圏内が669人、加古川市と隣接する高砂、明石、姫路、小野、三木市からは1112人、その他の兵庫県下から393人と広く兵庫県した全域に分布しており、さらに他府県からも26人が通院されていました。新患数は64人、このうち当地域の医療機関の先生方からの紹介患者さんは40人（紹介率63％）でした。

当リウマチ膠原病センターにおいても、これまでと変わらず、兵庫県下全域、さらには近隣府県からの患者さんを広く受け入れる予定ですので、患者さんは勿論、地域の先生方また、兵庫県下の先生方、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、関節リウマチの治療はここ10数年間でパラダイムシフトといわれるほどの変革を遂げました。バイオテクノロジーのめざましい進歩により、関節リウマチに非常に効果のある生物学的製剤等が処方可能となり、関節破壊が生じていない早期から系統立った治療を行なうことにより、関節の変形を防止することも夢ではなくなっています。

今後もシグナル阻害剤などの画期的な薬剤が次々と上梓される予定で、関節リウマチのみならず、自己免疫疾患全般の治療も様変わりしていくものと思われます。

当リウマチ膠原病センターでは、真に患者さんのためとなる医療を提供するために、つねに最新の医学知識を取り入れ、最適な治療を目指したいと考えています。現場の医療が最先端の医療をするためには、他科との連携のもと高度先進医療施設が必要であり、このたび加古川医療センターにリウマチ膠原病センターを開設できたことで、一層の発展をしたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介

整形外科

整形外科部長　高　山　博　行

当科は旧県立加古川病院時代から東播磨圏域における中核診療科として確たる信頼を得てきましたが、2009年移転後は救急救命センターが併設され、重症３次救急にも対応すべく最新医療設備も整備されました。移転後６年が経過した現在、重症症例にも対応可能な救急センターとして県内で広く認知されてきておりますが、特に脊椎脊髄損傷に緊急で対応できる施設は他に数少ないこともあり、県全域遠方からの紹介、搬送も多くあります。整形外科全体の手術件数は年間1100件を超えており、脊椎手術は約300件でそのうち脊椎脊髄損傷手術は昨年度は40件ありました。

脊椎損傷では緊急で脊椎固定術を施行しますが、スクリュー固定に際してはナビゲーションシステムを導入しています。ナビゲーションの利点としては正確性だけでなく、３次元CTのリアルタイムモニタを見ながらスクリューを挿入できるため緊急手術にも対応できる即時性も挙げられます。また多発骨折や骨盤骨折では、出血多量や合併する臓器損傷により生命が危険な場合も多くあり、ICUにて救急部や他科の先生方との連携による集中的な全身管理のうえでの治療を行っております。

一方、このような重症救急症例以外の疾患も数多く扱っております。ご紹介いただく慢性疾患の症例は以前より数多く安定しており、さらにここ２,３年は近隣の医療機関のニーズにも応えるべく、２次救急外傷も積極的に受け入れる方針としております。ここ２年は一般２次救急外傷の手術件数は430件近くあり、それ以前の件数（300～350件）より飛躍的に増加してきております。

さらに、骨粗鬆症で脊椎椎体骨折や大腿骨近位部骨折などを繰り返す「骨折の連鎖」をきたす患者さんが多いことから、当科主導で昨年「東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク」を立ち上げました。骨粗鬆症の革新的な薬剤が開発されてきたにもかかわらず、しっかりとした骨粗鬆症治療を受けている患者さんの割合は２,３割しかないと言われておりますが、この現況に対して患者指導も含めた包括的な骨粗鬆症治療を充実させることを目指したものであります。骨粗鬆症治療には、こういう患者さんの「治療からの脱落」を防止する地域全体の連携が必要ですが、当ネットワークでも「骨粗鬆症マネージャー」を育成して、患者さんへの生活指導、受診案内といった重要な役割を果たしてもらう所存であります。

■ 地域医療機関の先生方へ

本年度の診療報酬改定で、当センターのような急性期病院は、今後さらに在院期間の短縮が求められることとなり、また、入院に関しては手術適応のある症例が優先となって、保存的加療など軽傷症例での入院は難しくなりましたので、ご了解をお願いいたします。さらに術後も、周術期の合併症がなくリハビリだけとなった段階で、地域の回復期リハビリ病床での受入れを、また、外来通院も頻回のフォローは難しいことから、症状が安定した段階で紹介元の先生方に投薬・注射・物療などをお願いしたいと考えております。

地域の先生方には「かかりつけ医」として、何とぞご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

診療科紹介

放射線科

当科は現在、放射線診断常勤医４名と放射線治療常勤医２名・非常勤の放射線治療医３名で放射線診療業務全般に取り組んでいます。放射線診断では、80列マルチスライスCTや1.5テスラMR、核医学でのSPECT装置など最新の放射線機器が導入されています。今年度は新たに3.0テスラMR装置の増設も予定されています。IVR（Interventional　Radiology：放射線機器を用いた低侵襲治療）に関しては、救急救命センターと連携して外傷性出血に対する緊急の止血術や、肝癌に対する肝動脈化学塞栓療法については、従来のTACEを始めとして、薬剤溶出性ビーズによる最新の治療法にも対応しております。また門脈圧亢進症に対するカテーテル治療、化学療法や在宅療養のためのCVポート造設術も行っています。更に下肢閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する経皮的血管形成術・ステント留置術やIVR-CTを使用した膿瘍などのドレナージや腫瘍生検なども行っています。このようにIVR手技全般に幅広く対応しており、昨年度のIVR件数は392例を超えました。

放射線治療に関しても、姑息的照射だけではなく根治的放射線治療にも意欲的に取り組んでおり、県立粒子線医療センターや神戸低浸襲がん医療センターとも緊密に連携しております。乳腺外科や泌尿器科、脳神経外科など院内診療科からの依頼にとどまらず県立がんセンターなどの近隣の中核医療機関や医師会の先生方からも多数のご紹介をいただいております。このため昨年度の放射線治療患者数は245例と年々増加しています。以上のような外照射だけではなく、骨転移対する89-ストロンチウムの放射線内用療法も行っています。今年度からは常勤の放射線治療医も２名体制となりましたので、放射線科が直接治療ベッド管理できるようになり、入院での放射線治療も柔軟に対応できるようになりました。さらに今年度から最新鋭のバリアン社製リニアックに更新され、強度変調放射線治療（IMRT）などの先進治療も実施可能となりました。

■ 地域医療機関の先生方へ

院外からの画像診断やIVR全般だけではなく、疼痛などの症状緩和を含めた入院による放射線治療についても地域医療連携部を介して月～金で毎日対応しております。受診に至らないような相談的な内容でございましても、いつでもお気軽にお電話などでご連絡ください。

放射線治療を始めとして、下肢の閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する血管形成術、肝癌に対する動脈化学塞栓療法なども入院対応しておりますので、直接ご紹介頂ければ幸いです。

■ スタッフ紹介

□常勤医

小川　恭弘	（放射線治療専門医）	院長
酒井　英郎	（放射線治療専門医）	部長
多田　智恵子	（放射線診断専門医）	部長
伊崎　健太	（放射線診断専門医）	医長
西岡　瑛子	（放射線科専門医）	医長

□非常勤医

久島　健之	（放射線治療専門医）
佐々木　良平	（放射線治療専門医）
江島　泰生	（放射線治療専門医）
東田　歩	専攻医

＼お気軽にご参加ください／

2016年度 患者教室のご案内

生活習慣病教室

内　容	日　程
① 動脈硬化にかかわる心臓疾患について	5月26日（木）
② 生活習慣病予防のための運動療法のポイント～実践編～	8月12日（金）
③ 動脈硬化の検査と脳疾患について	9月29日（木）
④ 動脈硬化を予防する生活のポイント	12月22日（木）
⑤ 生活習慣病と足病変	2017 2月23日（木）
⑥ 生活習慣病予防のための糖尿病食事療法のポイント	2017 3月9日（木）

外来糖尿病教室

内　容	日　程
一回目のテーマ：糖尿病とは（医師） 糖尿病の食事療法（管理栄養士） 糖尿病の薬物療法（薬剤師）	4月20日（水） 6月23日（木） 9月23日（金） 11月21日（月） 2017 1月17日（火）
二回目のテーマ：糖尿病の運動療法・合併症・HbA1c（医師） フットケアと日常生活（看護師）	5月18日（水） 7月21日（木） 10月21日（金） 12月19日（月） 2017 2月21日（火）

肝臓病教室 総論

内　容	日　程
① 肝臓の働きと主な病気	4月11日（月） 8月8日（月） 12月12日（月）
② 肝臓病の食事・運動療法	5月9日（月） 9月12日（月） 2017 1月16日（月）
③ 肝臓病の治療	6月13日（月） 10月17日（月） 2017 2月13日（月）
④ 脂肪肝	7月11日（月） 11月14日（月） 2017 3月13日（月）

肝臓病教室 各論

内　容	日　程
C型肝炎（病態、食事の留意点や治療について）	4月25日（月） 10月24日（月）
B型肝炎（病態や症状、検査内容について）	5月23日（月） 11月28日（月）
肝硬変①（食事･運動療法の重要性）	6月27日（月） 12月26日（月）
肝硬変②（治療と症状への対応）	7月25日（月） 2017 1月23日（月）
肝臓がん（病態、主な治療とその看護）	8月22日（月） 2017 2月27日（月）
自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変（病態と治療内容について）	9月26日（月） 2017 3月27日（月）

時　間：15：00～16：30
（糖尿病教室のみ14:30～16:00）
場　所：県立加古川医療センター 1階　学習ひろば
参加費：無料（申込不要　当日直接会場にお越しください）